

A dynamic splash of clear water against a light blue background, with numerous droplets and bubbles captured in mid-air. The water appears to be falling from the top, creating a sense of movement and freshness.

第1章

総合基本計画策定の 趣旨と位置付け

Aqua Plan

第1章 総合基本計画策定の趣旨と位置付け



1. 総合基本計画策定の趣旨

岡山市水道局では、4町との合併など政令指定都市（以下「政令市」という。）の実現に向けた本市の環境変化と少子高齢化の進展、伸び悩む水需要など水道事業をめぐる環境変化を踏まえて、平成19年に計画期間を10年間とする岡山市水道事業総合基本計画（アクアプラン2007）を策定しました。

アクアプラン2007では、拡張の時代から維持管理の時代に移行し、水需要も伸び悩む中で老朽化した水道施設の更新、団塊世代の退職に伴う人材育成などの課題に対処するため、「安全」、「安定」、「災害対策」、「お客さまサービス」、「経営基盤強化」、「環境対策」を事業経営の柱と定め、現行料金を維持しつつ効率的な経営に努めてきました。

アクアプラン2007が期間満了を迎えようとする今、水道事業をめぐる環境は、長期的な水需要の減少につながる人口減少社会の到来、高度成長期に整備した施設の老朽化、東日本大震災や熊本地震を踏まえた危機管理対策の見直しなどにより厳しさを増しています。

このような環境変化を踏まえ、厚生労働省では平成25年3月、「水道ビジョン」を全面的に改め、50年後、100年後の将来を見据えた「新水道ビジョン^{※1}」として新たに水道事業者が目指すべき道しるべを示しました。

また、本市は、「医療・福祉等の都市機能の集積」、「災害が少なく温暖な気候」などの強みを活かし、活力と躍動感あふれる都市づくりを目指して「岡山市第六次総合計画 長期構想」（以下「長期構想」という。）を策定しました。

こうした背景を踏まえ、都市基盤を支えるライフラインとして市民の安心・信頼を未来につなげるため、アクアプラン2007を継承しつつ、長期的な視点に立ち、積極的に事業を進めていかなければなりません。このため、引き続き、水の安全性・安定供給を確保するために施設の強靱化を図るとともに、お客さまの満足度を高めつつ持続可能な経営を行うための指針として、岡山市水道事業総合基本計画（アクアプラン2017）を本市の新たな水道事業ビジョン^{※2}として策定するものです。

※1 新水道ビジョン

平成25年3月、水道事業者のみならず幅広い関係者が今後の水道の理想像を共有し、役割分担に応じた取組に挑戦していくことを目指すために厚生労働省において作成された。「地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道」を基本理念とし、50年後、100年後の将来を見据え、水道の理想像を明示するとともに、今後、当面の間に取り組むべき事項、方策等が提示されている。

※2 水道事業ビジョン

新水道ビジョンで示されている水道の理想像を実現するため、各水道事業者が、事業を取り巻く環境を総合的に分析した上で、その実現方策を示したもの



2. 総合基本計画の位置付け

アクアプラン2017は、長期構想を踏まえ、水道事業の中長期的な事業運営の方針を示します。また、厚生労働省が作成を推奨する「水道事業ビジョン」、総務省が策定を求める「経営戦略※」に位置付けます。

具体的な取組の内容については、このアクアプラン2017のもとに財政収支計画や成果指標等を示した「アクションプラン」を策定し、岡山市水道事業審議会をはじめとしたお客さまのご意見や社会情勢の変化等を踏まえて毎年度の予算や事業計画に反映していきます。



※ 経営戦略

公営企業が将来にわたってもサービスの提供を安定的に継続することが可能となるように、投資、収支等の試算を行った中長期的な経営の基本計画



3. 計画期間

アクアプラン2017は、長期構想で示された長期的なまちづくりのビジョンを踏まえ将来の水道事業のあるべき姿を展望しつつ、当面の目標を10年後に置き、計画期間は平成29年度から平成38年度までの10年間とします。

実行計画「アクションプラン」は、アクアプラン2017の計画期間を前期と後期に分け、5年ごとに策定します。施策に具体的な目標を設定し、進捗管理を行うとともに、取組予定と取組結果を公表して透明性の高い事業を推進します。

